

文化映画

紹介

渡部実

「知っておきたいぜん息音楽 楽しく歌って腹式呼吸」映学社作品

「髯漆 職人大西勲のつぶやき」いせFilm作品

知っておきたい
ぜん息音楽

「スタッフ」製作／福田義子、高木裕己 脚本・監督／高木裕己 撮影／森隆吉、ロルフ・マルクアルト 録音／沢畑明、ブリギッテ・シヤラー 選曲／柏瀬紀代 隆 CG制作／小嶋宏幸、高橋誠哉 ナレーター／中里雅子 指導・号令／福田義子 発案者／館野幸司（元群馬県立がんセンター東毛病院小児科部長）、内田元彦（群馬県体操協会会長、群馬大学名誉教授） 監修／西牟田敏之（国立療養所下志津病院院長）、豊島協一郎（とよしま小児科院長） 制作・著作／ぜん息音楽療法研究連合、映学社 完成／03年 ビデオ作品・23分

「内容」ぜん息、特に小児ぜん息はアトピー性皮膚炎と共に子供を苦しめる。現在、広い意味でぜん息は世界中で増加傾向にあるとい

う。世界保健機構(WHO)によると、世界人口の中でぜん息患者が1億人を超えたとの報告がある。そんなぜん息の中で、とりわけ小児ぜん息を予防したり軽減するにはどのような方法があるのか。本編は、腹式呼吸で呼吸困難を和らげ、精神面で不安や苦痛を取り除く「ぜん息音楽療法」を紹介した作品である。

ぜん息音楽療法とは聴き馴れないものだが、ぜん息に対する音楽療法の最初の報告は、1729年にリチャード・ブラウンによって行われた。彼によると「ぜん息患者は、発作と発作の間に、いつも歌っているようにすると、効果的な呼吸法が可能となり、その結果、ぜん息発作を軽減できる」というものであった。日本では、1970年に群馬県立がんセンター東毛病院小児科部長の館野幸司先生の研究室で、館野先生のほか、音楽家、音楽療法士によって研究が進められ、現在に

至っている。ようするに従来までのぜん息治療は、気管の炎症を抑える薬物療法が基本となっていたが、現在はそれと同時に環境整備によるケアと鍛錬療法が大事なことで、また、その鍛錬療法で重要なひとつが腹式呼吸法であり、それは幼児でも自然に無理なく習得していけるものであるという。画面ではポーランドの幼児施設でのぜん息音楽療法の実践の場が紹介される。日本でも同じ光景が展開される。幼児たちは歌を歌ったり、小さな楽器を使い音楽に接しながら、自分の身体の腹式呼吸を身につけていく。幼児たちは先生のピアノ演奏で歌を歌うが、歌い方にも特色があり、最後の音を出るだけのばして歌う「伸ばし歌」、息継ぎをせずに一息で歌いきる「一息歌」などが発案され、実践されている。参加者は音楽ばかりではなく、親子でゲームをしたり、体操をしたりして

身体全体のリフレッシュに
つとめているようだ。

画面には医学的な立場から
ぜん息の仕組みがCG映
像により説明され、それ
によってぜん息の際の薬物に
頼らない腹式呼吸の必要性
が示される。全編にわたっ
て平明な解説がなされ、ぜ
ん息、小児ぜん息の音楽療
法の有りようを分かりやす
く紹介している(問合せ先
● 映学社 TEL03-3
35919729)



「知ってわきたいぜん息音楽療

探 漆 職人大西勲のつばやき

「スタッフ」企画/下館市
市長公室公聴広報課 制作
/ 助川満、米山靖 脚本・
演出/伊勢真一 撮影/安
井洋一郎 照明/箕輪栄一
録音/渡辺丈彦 音楽/横
内丙午 出演/大西勲 協
力/小野瀬正、下館市の皆
さん 制作協力/ビボコ
コミュニケーションズ 完成



「製作」

／03年 ビデオ作品/30分
「内容」かわって本編は人
間国宝の職人である大西勲
氏の創作を記録した作品で
ある(平成14年に大西氏の
仕事は国の重要無形文化財
に認定)。

九州の炭鉱町で生まれ育
った大西氏は、各地を転々
とした後、茨城県下館市に
落ち着いた。もう20年以上
になる。気がついたら職人
の道を選んでいたという。

こじんまりとした仕事場
に大西勲氏の仕事の模様が
映し出される。だがこの作
品は従来の伝統工芸を記録
した作品とはいささか趣き
を異にしている。それは大
西氏が仕事をしながら取材
者の質問に気さくに答え、
会話に応じている点である。
話をしながら大西氏によ
る大盤の漆器はみるみると
仕上がっていく。

例えば削り分けた松の板
材を曲げる「マゲワ」作り
もそうである。分業に頼ら
ずに全てを一人で行う漆工
芸の仕事。大西氏は出来る

だけ昔ながらの工程を守っ
ているので、ひとつの漆器
が出来るまで半年近くかか
るといふ。

それにしても大西氏の仕
事ぶりはテキパキとしてい
るといふか、職人そのもの
である。大西氏も自らを職
人と称している。副題にあ
る「職人」の「つばやき」
のまま、彼は忙しそうに手
仕事の合間に取材者と会話
を交わす。「私は仕事を選
べる人間じゃない」。気が
ついたら職人の道を選んで
いたという。そして、彼は
名もない昔の職人たちの仕
事ぶりを称賛する。古くか
ら伝えられる器の彫り方
(コクソポリ)にしても、
こう語る。

「長い年月の間にはどうし
ても木が痩せてしまうん
です。コクソポリはそれを
防ぐという意味なんです
ね。下(元)にこのような仕
事があるという証しにもな
るし、コクソポリの跡が透
けてみえるわけなんです
ね。このようなことは昔から

ってあるんです。びっくり
します。昔の人のやったこ
とというのは、学問とか何
かがない時代にそのような
ことを考えて長く残ること
に精を出したというか――
」

大西氏は昔の職人が歩ん
だ道をだまっついて行き
たいというのだ。明日の仕
事に備えての掃除、刃物の
手入れなどの段取りが出来
れば一人前ともいふ。後半
は漆を使う工程が記録され
る。こうして、幾つかの工
程を経て漆器は完成する。

この作品は職人の仕事ぶ
りが身近に感じられる。大
西氏に取材した伊勢真一監
督は今までビューマン・ド
キュメンタリー作品で数々
の注目作を発表されてきた。
その伊勢監督が新しく漆職
人の世界を記録したこの作
品は、技と大西氏の人柄を
無理なく記録し新鮮さ感
じさせる一作となった。(問
合せ先)いせFilm TEL03-3406194
55)